

第 9 回 KPU シンポジウム報告書

2018年5月2日(火)、京都薬科大学・躬行館 T31 講義室において、第9回 KPU シンポジウムを開催しました。特別講演のお1人目として、東京大学医学部の小田吉哉先生をお迎えして、「生体試料分析の面白さと難しさ」という演題で、ご自身の幅広い分野(製薬企業の研究職、基礎薬学の研究者)でご活躍されてきた経験をもとに、新しい疾患治療標的を目指した新薬を開発する際に、診断用バイオマーカーの探索と確立がいかに重要となるかをご講演いただきました。特別講演のお2人目として、本学出身の濱 宏仁先生をお迎えして、「次世代に求められる臨床薬剤師像について」という演題で、ご自身の幅広い臨床領域でご活躍されてきた経験をもとに、病院薬剤師が現在から今後の臨床現場で携わるべき、かつ果たすべき幅広い対象や職域を含めてご講演いただきました。一般公演として新任もしくは最近着任された本学の教員(田中教授、古田教授、村木教授)から3題の講演をいただきました。合計302名の多くの学生や教員の方々をご参加くださいました。シンポジウム終了後の茶話会では17時30分頃まで、講演者や運営委員の先生方を囲んで学生を中心に熱心に質問が飛び交っておりました。

今回も座長の先生方をはじめ多くの先生方からの多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

KPU シンポジウム実行委員会

■ シンポジウム概要

日時：2018年5月2日（火） 13：30～17：00

場所：京都薬科大学・躬行館3階 T31 講義室

開会の挨拶

後藤 直正 学長

特別講演 1

13：35－14：15

（座長：代謝分析学分野 安井 裕之 教授）

「生体試料分析の面白さと難しさ」

東京大学医学部 特任教授 小田 吉哉 先生

特別講演 2

14：15－14：55

（座長：臨床薬学教育研究センター 中村 暢彦 講師）

「次世代に求められる臨床薬剤師像について」

神戸市立医療センター西市民病院 薬剤部 副薬剤部長 濱 宏仁 先生

一般講演 1

15：15－15：35

（座長：臨床腫瘍学分野 中田 晋 准教授）

「マスト細胞の多様性とその機能」

田中 智之 教授（薬理学分野）

一般講演 2

15：35－15：55

（座長：生薬学分野 中村 誠宏 准教授）

「独自の触媒で挑む高選択的有機合成」

古田 巧 教授（薬化学分野）

一般講演 3

15：55－16：15

（座長：臨床薬学教育研究センター 本橋 秀之 講師）

「リアルワールドデータを利用した我が国における抗菌薬使用動向の把握」

村木 優一 教授（臨床薬剤疫学分野）

閉会の辞

第9回 KPU シンポジウム実行委員長 安井 裕之 教授



特別講演 1

東京大学 医学部

特任教授 小田 吉哉 先生



特別講演 2

神戸市立医療センター 西市民病院 薬剤部

副薬剤部長 濱 宏仁 先生



講演風景



一般講演 1

薬理学分野

田中 智之 教授



一般講演 2

薬化学分野

古田 巧 教授



一般講演 3

臨床薬剤疫学分野

村木 優一 教授